

7) 神経内科

1. 診療体制と患者構成

1) 診療科スタッフ（講師以上）：

千葉 厚郎（教授、診療科長）

市川弥生子（講師）

宮崎 泰（講師）

2) 常勤医師数、非常勤医師数

常勤医師：7名、非常勤医師数：7名、レジデント：3名

（内、常勤1名、非常勤1名は脳卒中専任）

3) 指導医数、専門医・認定医数

日本神経学会専門医：11名、日本神経学会指導医：6名、

日本内科学会専門医：4名、日本内科学会認定医：11名、日本内科学会指導医：7名

4) 外来診療の実績

当科では基本的に全てのスタッフがあらゆる神経疾患を神経内科generalistとして診療する体制を取っており、専門外来は置いていない。平成27年度の外来患者総数は9,741名、内新規患者数2,384名、であった。

5) 入院診療の実績（除、脳卒中科担当分。脳血管障害についてはP224 脳卒中センター参照。）

平成25年度の疾患別新入院患者数（含、他科併診）は下記の通りであった。

新入院患者総数：236（男性：132、女性：104、平均年齢：56.1歳）

疾患別内訳

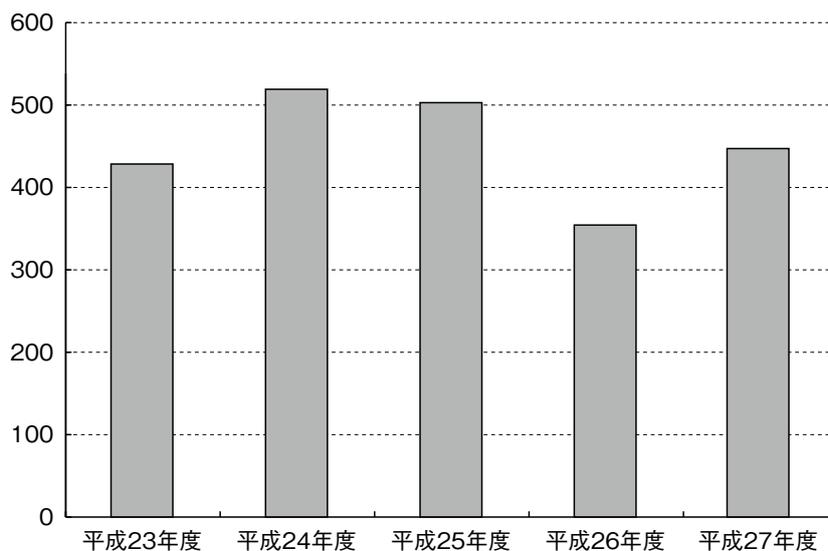
脳血管障害	4
神経変性疾患	26
中枢神経炎症性疾患（非感染性）	30
中枢神経感染症	45
中枢神経系腫瘍	3
痙攣発作・てんかん	42
不随意運動	5
脳症（含む薬物中毒）	12
末梢神経障害／脳神経障害	39
筋疾患	15
その他の神経関連疾患	11
非神経疾患	4

2. 先進的医療への取り組み

1) 抗神経抗体測定による免疫性神経疾患の診断・治療効果の評価

特にGillain-Barré症候群については、入院後直ちに抗神経体検査を行い、ガンマーグロブリン静注療法／血漿浄化療法の正確な適応決定を行っている。

現在当科では自施設のみではなく、全国から依頼を受けて測定を行っており、測定している項目はGuillain-Barré 症候群/Fisher症候群関連抗体（抗ガングリオシド抗体、11抗原）、傍腫瘍神経症候群関連抗体（6抗原）、抗MAG抗体、抗TPI抗体などである。他院からの依頼に対しても、実際の臨床に役立つよう出来る限り迅速に測定・報告をおこなっている。過去5年間の総測定件数の推移は次のグラフの通りである。



3. 地域への貢献

- 1) 多摩地区における研究会・学会発表・講演会開催 : 4回
- 2) 三多摩地区における研究会世話人
 三多摩神経懇話会、多摩神経免疫研究会、東京西部神経免疫研究会
 多摩パーキンソン病懇話会、多摩AD・PD研究会、多摩Stroke研究会
 多摩Headache Network、多摩てんかん地域診療ネットワーク懇話会